

けんこう

岐阜県総合医療センター

- 平成26年3月発行
 - 平成26年 春号
 - 発行責任者 渡辺佐知郎
 - 編集 総合医療センター広報委員会

退官のご挨拶

岐阜県総合医療センター

理事長兼院長
渡辺 岩田郎



岐阜県総合医療センターの理念

県民の皆様方に信頼され、患者様本位の安全で良質な全人的医療を提供します。

岐阜県総合医療センターの基本方針

- 1) 岐阜県の基幹病院として急性期を中心とした医療を担当します。
 - 2) 科学的根拠に基づく医療の提供と医療安全に努めます。
 - 3) 必要な医療情報を広く公開し、医療の信頼性を確保します。
 - 4) 地域の医療機関や福祉施設との連携を重視します。
 - 5) 迅速かつ確実な医療とともに、効率的な病院運営に努めます。
 - 6) 医学的知識、医療技術の研鑽に努め、医学や医療の進歩に寄与します。

は様々な春々にはまだ雪が残るものの、山里には桜の蕾が膨らみ、本格的な春の準備をしていきます。岐阜県総合医療センターも、四月から新しい体制で更に充実した

自然豊かな岐阜県の四季の移り変わりの中、美濃の田園には様々な春の花が開花し、飛騨の山々にはまだ

尚、此度私こと渡辺は理事長兼院長任期満了にて3月31日に退職させていただくことになりました。本当に皆様のお陰にて無事に退職できましたことを厚く御礼申し上げます。昭和53年4月1日に当センターに第一内科医長兼循環器科医長として赴任させていただきまして以来、其の間36年の年月が過ぎました。まさに「光陰矢の如し」であります。最近医療の進歩も目覚ましく、医療制度も大きく変わりました。

医療とサービスを提供できるようになります。

尚、此度私こと渡辺は理事長兼院長任期満了にて3月31日に退職させていただきましたことになりました。本当に皆様のお陰にて無事に退職できましたことを厚く御礼申し上げます。昭和53年4月1日に当センターに第一内科医長兼循環器科医長として赴任させていただきまして以来、其の間36年の年月が過ぎました。まさに「光陰矢の如し」であります。が、最近医療の進歩も目覚ましく、医療制度も大きく変わりました。

医療、がん医療、小児・周産期医療、心臓・血管医療などに重点的に力を注いで参りました。現在建築中の重症心身障がい児病棟も平成28年にオープン予定で、心身障がい児のために努力していきたいと思います。

また、当センターは地域がん診療連携拠点病院としてがんに力を入れ、手術はロボット支援システム「ダ・ヴィンチ」を昨年導入し完全、迅速に行い、救命救急センターでは「断らない医療」の実践と/or 年間救急患者約31,000名を受け入れ、救急車は約5,000台受け入れています。また、総合周産期母子医療センターとして難産や合併症のある妊婦の方の入院を積極的に受け入れ、重責を果たしております。心血管系の病気は検査室で検査後緊急にその場で手術できる「ハイブリッドセンター」を、やはり昨年設置しました。

「病院は患者のために建てられた」は、私と次期理事長兼院長予定者の現滝谷院長代理と同じ気持であります。私の退官のお札を申し上げると共に、今後とも岐阜県総合医療センターを何卒宜しくお願ひ申し上げます。どうも今まで本当にありがとうございました。

手術支援ロボット（ダ・ヴィンチ）による胃がん手術第1例目を施行

外科 國枝 克行

平成25年2月に手術支援ロボット（ダ・ヴィンチSi）を導入し、低侵襲手術として急速に普及している腹腔鏡（胸腔鏡）下手術をさらに進化させた先端医療・ロボット手術ができるようになりました。

同年3月に、泌尿器科で前立腺がんに対する前立腺全摘術の第1例目が施行されました。保険診療が可能であるため、手術症例数が急速に増加し50例に達しました。

11月には外科でダ・ヴィンチを用いた早期胃がんに対する幽門側胃切除術の第1例目を施行しました。3Dの大画面モニターをしながら、自由自在に3本のアームを操作することで、拡大視効果と手振れ防止効果が得られ、より繊細で確実な手術が可能となります。現在、胃切除術は保険適応でないため、自由診療（臨床試験）として行われていますが、1日も早く高度先進医療、さらに保険診療として認められるように、厚生労働省に申請されているところです。

当センター外科では、「根治性が高く、からだにやさしい手術」を目指して、胃がんや大腸がんの患者さんに対して腹腔鏡下胃切除術や腹腔鏡下大腸切除を積極的に行っていきます。今後、がんの手術は「開腹手術」から、「腹腔鏡手術」主体に変わっていくでしょう。そして近い将来、ダ・ヴィンチによるロボット手術が「普通の手術」になる時代が来ると予測しています。



歯科医師会との協定締結について

口腔ケアという概念は以前から医療関係者の間で注目されてきましたが、国の政策医療として歯科保健医療制度に導入されたのは平成24年4月からであり、日本歯科医師会・国立がんセンターとの共同研究から始まったこの事業は比較的早い段階で保健導入されました。この制度の狙いはがん手術、心臓手術、移植手術などの患者に対して術前・術後口腔ケアを行なうことで誤嚥性肺炎や術後感染などのリスクを軽減し、入院合併症を減らし、抗生剤の使用量や在院日数の減少につなげようとするものであります。当センターにおける口腔ケアに関連する活動としては、まず平成21年に口腔ケアチームを発足させ、院内ラウンドを開始、口腔ケアに関する講演会等を随時開催、院内スタッフへの情報提供、啓蒙活動から開始してきました。そして平成25年11月21日には圏内の地域歯科医師会（岐阜市、各務原市、羽島、山県、もとす歯科医師会）との間で医科歯科連携に関する調印式が行なわれるに至りました。

当センターにおける口腔ケアチームは、歯科口腔外科医師をはじめ歯科衛生士（山本）、田中看護師長、山中看護師長から成り、毎週火曜日、水曜日院内ラウンドを慣行、外来では歯科衛生士による専門的口腔ケアが毎日励行されており、日常診療とは別に鋭意口腔ケア活動に取り組んできました。しかし、院内実績のデータベースからは、いまだ医師から口腔ケアの依頼は少ないので現状です。平成25年の当センターにおけるがん、心臓手術は、がん手術が1,080件、心臓手術が342件でしたが、歯科口腔外科に周術期の口腔ケア依頼がありこれを行なった件数は、がん患者が333件、心臓手術患者が5件で、対象患者全体のまだ24%しか医科歯科連携は行なわれていないことになります。

地域がん診療連携拠点病院でもある当センターが医科歯科連携に合意し調印をしたということは、全てのがん治療（手術・化学療法・放射線治療）や心臓手術の患者に対しセンターの持つあらゆる機能を駆使して専門的口腔ケアを行なう義務があるといつても過言ではありません。さらには医科歯科連携の動きは全国規模で拡大しており、施設によっては口腔ケアをセンター化しようとする動きすら散見されます。一方、がん治療はチーム医療として再認識され、歯科医師もその一旦を担うよう国の政策医療は変化しております。地域医療関係者の多くが見守る中、当センターにおける今後の口腔ケア活動はますます重要になってきております。



核医学診療センターのご紹介



核医学診療センターは当センターの地下1階にあり、核医学検査を行っています。核医学検査はアイソトープ検査またはRI検査とも呼ばれており、ごく微量の放射性物質（RI）を含むお薬を用いて病気を診断する検査です。この放射性薬剤を注射もしくは内服などの方法で体内に投与し、お薬が出る放射線をカメラで測定し、その分布を画像にして病気を診断しています。X線検査・MRI検査・CT検査・超音波検査と同様に、患者さんにとって比較的苦痛の少ない検査方法です。検査には6名の診療放射線技師、4名の放射線科専門医に加えて循環器内科医や神経内科医、脳神経外科医が関わっており、主に脳・心臓・内分泌・悪性腫瘍等の疾患に対する診断を行っています。

当センターでは核医学イメージング装置として、PET-CT装置1台、シンチレーションカメラ2台が稼働しています。PET-CT検査は最新のがん画像診断方法であり、平成18年に導入されました。主に悪性腫瘍の発見、再発や治療効果判定の診断に活躍しており、1度の検査でほぼ全身を調べることができる画期的な検査です。シンチレーションカメラのうち1台は、平成23年にCTが装備された新機種が導入されました。これにより以前よりも精度の高い解析・診断画像を提供することが可能になっています。



シンチレーションカメラのうち1台は、平成23年にCTが装備された新機種が導入されました。これにより以前よりも精度の高い解析・診断画像を提供することが可能になっています。

新棟建設工事について



当センターでは、平成25年10月から新棟の建設工事に着工しました。この新棟は重症心身障がい児のための入所病棟や、小児医療分野の専門性の高い診察・検査・治療を行うための機能の集積及び外来化学療法部門などの機能を有する建物です。

新棟の概要

建設場所 本館南西

建物規模 7階建て 延床面積 4,816m²

工 期 平成25年10月～平成27年12月

主な機能

- ①障がい児病棟の整備（30床）
- ②小児科外来の本館からの移転、診察室の拡充（7室→10室）
- ③検査機器（MRI・CT）の増設
- ④化学療法室の移転・増床（20床）
- ⑤病児・病後児保育、専門ドック、会議室等



屋上サイン（看板）を設置しました



夜間、来院される方に当センターの位置をはっきりお知らせするために屋上サインを設置しました。落ち着いた薄ブルーです。夜間に近くを走行される時は是非ご覧ください。

また、外来駐車場において、駐車した位置がわからなくなる、とのご意見をいただきますので、A～Eのゾーンを示すサインを設置し、それに合せて駐車場案内図を修正いたしました。少しでも快適に当センターを利用していくだけるよう工夫改善に努めて参ります。



看護部からのお知らせ

当センターでは、医療の高度化・専門化に伴い、看護の現場においても専門看護師、認定看護師等の資格を取得し看護の質の向上に取り組んでいます。現在、3名の専門看護師と15名の認定看護師が在職して、それぞれの分野で活躍しています。今回は、「がん化学療法看護認定看護師」の取り組みを紹介します。



がん患者さんに寄り添って

現在「がん化学療法」は、がん治療の中でも重要な役割を占めており、治療を受けている患者さんが多くみえます。また、がん化学療法には様々な副作用もあることから、辛い思いをしている患者さんもみえます。がん化学療法看護認定看護師として、入院でも外来でも前向きに治療が受けられるよう患者さんに寄り添い、看護を行っていきたいと思っております。

支援内容

1. 確実ながん化学療法治療の管理

抗がん剤は、治療効果だけでなく、副作用も強く、身体への影響が大きいため、治療を確実・安全に行えるよう、投与量や投与方法を管理しています。

2. 副作用への支援

がん化学療法は副作用を伴う治療です。状態をお聞きしながら、副作用が少しでも軽減でき、楽に過ごしていただけるよう対処方法と一緒に考えていきます。

3. 治療継続への支援

がん化学療法は、長期にわたり治療を続けていく必要があります。副作用が強く治療を断念してしまったり、不安を抱えながら治療を受けている患者さんへ、治療が続けられるよう患者さんの思いを大切にしながら、支援していきます。



寄付

平成25年12月、平成26年1月に各1件の寄附金を頂きました。大切に使わせていただきます。

春といえばいろいろな山菜が食用として出回る季節です。たらの芽、ふきのとう、わらび、せんまい、こじみ、うるい、コシアブラなどなど：山菜の特徴といえば独特の苦味やえぐみを持つ「灰汁（あく）」が多いことですが、「苦くてあまり食べられない」と言われる方もいれば、逆に「あの苦味こそがおいしい」と言われる方もいるなど様々です。

山菜の代表的な調理方法はやはり天ぷらですね。適切なあく抜きと高温で揚げることによって苦味を抑えつつ独特の風味が残り、多くの方がおいしく召し上がることができます。

山菜のあくが強いのは動物や虫に食べられないための防衛手段と言われており、苦いだけではなく生き物の生理作用に影響を与えるものがあります。それが良い方向へ影響するものは「薬効」、悪い方向へ影響するものは「毒」と分類されます。

「良薬は口に苦し」という言葉がありますが、苦いものに限らずどんなものでも過剰に摂取しては健康に害が及ぶ可能性があります。苦味をひとつのおいしさとして食事を楽しむためにも、適切な調理法と摂取量を心がけましょう。

またこの季節山菜採りに出かけ、食用の山菜とよく似た有毒植物を間違えて食べたことによる中毒事故が毎年発生しているのでお気をつけください。

栄養管理部です



編集後記

広報紙「けんこう」第27号をお届けします。岐阜県総合医療センターは、4月より新たな体制のもとで船出することになりますが、引き続きよろしくお願ひいたします。

また、取り上げてほしい情報などありましたら、お気軽にご意見をお寄せください。

岐阜県総合医療センター 広報委員会

〒500-8717 岐阜市野一色4丁目6番1号

TEL.058-246-1111 FAX.058-248-3805

Eメールアドレス info@gifu-hp.jp

ホームページアドレス <http://www.gifu-hp.jp>